

胃がん検診をお申込みされる方へ

胃がん検診を安全に実施するため、
次の項目に該当する方は、検診を受けることができません

- 1 **バリウム過敏症の方**（過去にバリウムにより体調不良を起こしたことがある）
- 2 **次の病気で過去に治療を受けたことがある方**
 - 消化管の穿孔（穴が開いた）・腸閉塞・腸捻転・大腸憩室炎
 - 胃を全摘、大腸・小腸の手術をしている ○腹部の頻回手術
- 3 **胃や十二指腸の病気で治療中の方**
- 4 **1年以内に手術した方**
腹部、心臓病、呼吸器疾患、頭部、運動器（椎体（背骨）、関節など）
- 5 **重篤な病気または体調不良を起こす恐れがある方**
 - 1年以内の発作（脳血管疾患、虚血性心疾患、不整脈）
 - 状態が不安定な糖尿病 ○脳圧亢進でシャント中 ○大動脈瘤
 - メニエール病（治療中または自覚症状がある）
- 6 **透析中、心不全、慢性腎疾患で水分制限がある方**
- 7 **呼吸困難や肺炎をおこす恐れがある方**
 - 過去にバリウムが気管に入ったことがある ○嚥下障害
 - 喘息発作がある ○在宅酸素療法中
- 8 **撮影台から転落の恐れや撮影が困難な方**
 - 自立歩行が困難または撮影台の手すりを握ることが難しい
 - 検査のための体位変換（寝返り）ができない ○体重が130 kg以上
- 9 **妊娠中または妊娠していると思われる方**

※ 自覚症状がある方、バリウム検査で毎回「精密検査」の方は、医療機関での検診をお勧めします。

胃がん検診について、ご理解の上お申し込みください

この検診は、バリウムを使って胃の粘膜状態を写し出し、病変の有無を確認するもので、“胃がん”をはじめ、“胃潰瘍”や“ポリープ”などの疾患を見つけることができます。

なお、この方法では、胃の粘膜に変化があらわれにくいがんや、病変が骨や十二指腸の影になる部分にある場合などは、見つけることが困難な場合があります。

この検査で「異常なし」と判定されても、病気を100%否定するものではありません。

◇胃がん検診前日・当日のご注意◇

- 前日の夕食は、午後8時頃までに済ませてください。就寝までの飲水制限はございません。
- 当日の朝食は摂らないでください（検診が受けられなくなります）。
- 服薬や熱中症予防のための飲水は、コップ一杯程度であれば差し支えございません。

○服薬

服用	薬の種類	方法
×	糖尿病薬 (血糖降下剤・インスリン)	絶対に服用しないでください (低血糖発作の恐れがあります)
○	その他の常用薬 (血圧・不整脈・心臓病など)	起床後早めに服用してください

- 画像不良の原因となるため、入れ歯安定剤は検診終了まで使用しないでください。
- 服装は、ボタンや金具、刺繍のないもの（無地のTシャツなど）を着用してください。

次の方は検診当日の体調などにより受診できません。

- 糖尿病で、検査前に経口血糖降下剤を服用又はインスリンを使用
- 3日間排便がない又はひどい便秘
- 検診会場で計測した血圧が高い（180/110mmHg以上）

※ このリーフレットは、『胃X線検診安全基準』（発行：日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部）を参考に作成しています。



当協会のホームページから胃がん検診の詳細な内容をご覧ください。



けんこうリンク
公益財団法人 茨城県総合健診協会